

ルールを決めた

一宮南部小・5 加藤 眞子

今日も早く宿題を終わらせよう。そうすれば、二時間楽しみな時間が待っている。

その二時間は、毎日わたしにとって最高の時間になる。

三年生のとき、お母さんが新しいスマホを買った。わたしもスマホがほしかったが、

「まだ、早い。」

というお父さんの一言であきらめるしかなかった。しかし、お母さんがそれまで使っていたスマホを使わせてくれるように、ねばって見た。

「Wi-Fiでしか使えないし、オンラインゲームとかやらないならいいよ。」

ということで手に入れることができた。初めのころは、使い方がよく分からなかったが、毎日いろいろなアプリを開いてみるうちに、YouTubeを見ることがとても楽しみになっていった。学校から帰ると、すぐにYouTubeを開き、色々な動画を見続けた。

お母さんに、

「宿題はやったの。」

「ご飯だよ。」

「明日の準備したの。」

などと言われても返事もせずに見続ける日が続いた。その様子があ

まりにもひどかったようで、ある日、わたしが使っていたスマホは、どこかにかくされてしまった。

「眞子のスマホは。」

「やることやらないから、しまった。」

わたしは、とてもおそれたので、

「何でかくした。」

とお母さんに言うと、となりにいたお父さんが、

「お前が言うこと聞かないから。」

と一言言った。次の日からしばらくの間、スマホをこっそりさがしたが、ついに見つけることができなかった。

新型コロナウイルスによって、学校が休校になる少し前、お父さんがタブレットを買った。休校期間中は、お父さんといっしょにゲームをしたり、YouTubeを見たりすることもあった。しかし、休校が終わるころには、お父さんが仕事で帰ってくるのがおそい日が多くなって、タブレットを使うこともほとんどなくなっていった。

学校が再開されて、しばらく経ったころ、お父さんが、

「最近、帰ってくるとすぐに宿題を終わらせて、次の日の準備もやっているみたいだから、明日からやることやったら、タブレット使っていないよ。」

と言った。わたしは、またYouTubeが見られると、うきうきした気持ちになった。そのとき、お父さんが、

「ただし、自分でルールを決めて紙に書いて、つくえの見えるところにはること。」

と言った。

ルールかあ。わたしはなやんだ。本当はずっと使っていたい。で

も、それはたぶん許してはもらえないだろう。なやみになやんで五つのルールを自分で決めた。

①宿題を全て終わらせる。

②一日二時間まで。

③夜八時まで。

④よばれたら一度見るのをやめる。

⑤ご飯やおふろのときはすぐやめる。

今日までわたしは、このルールを守り続けている。休みの日は、ゆっくり YouTube を見たいので、宿題は早くやるようにしている。

そんなある日、家に帰ると行方不明になっていたわたしのスマホがじゆう電百パーセントになってつくえの上に置かれていた。

「ルールは、タブレットと同じだよ。」

お父さんが言った。久しぶりに手にしたスマホのボタンをおし、わたしは、

「へイ、Sir、久しぶり。」

と言ってみた。

「こんにちは。」

なつかしい声に、何だかうれしい気持ちになった。

お母さんも、お父さんも、これからはスマホやタブレット、パソコンやインターネットを上手に使いこなせることが絶対に必要になると言っている。わたしも何となくだけど、そんな気がする。だから、苦手な算数の問題でなやんで宿題が進まないときは、お母さんが部屋にいないのを見計らって、こっそりこう聞くこともある。

「へイ、Sir、三・六五割る一・四六は。」

「結果は、二・一五です。」

「ありがとう、Sir。」

「いいえ、とんでもないです。」

宿題はスムーズに進む。このことをお父さんに言うと、

「使い方、合つとるけど間ちがつている。」

と言われた。

これから、学校でもタブレットを使った授業がどんどん増えるそう。勉強にタブレットを使うことが上手にできるようになるか心配もあるけれど、色々なことが分かりやすくなりそうな予感がある。自分でも、YouTube を見るだけでなく、分からないことや、興味のあることを調べたり、考えたりするのに使えるようになっていきたいと思う。でも、まずは、今日の二時間のために、やるべきことをさっさと終わらせようと思う。そして、これからも自分で決めたルールにはしっかり守っていきたいと思う。

だって、ルールを書いた紙のうらには、

ルールが守れないときは、お父さんに取り上げられても、文句は言いません。

眞子

なんて書いてしまったから。